

第15回

水道事業を考えよう

未来へ引き継ぐ 安全で頼れる水道をめざして

いつ起こるかわからない自然災害。

どんなときも重要なライフラインである水道を供給するためにどうすべきか。

今回は、苦林浄水場浸水対策工事についてご紹介します。



問合せ 水道課施設係 ☎295-2112 ①165

災害に強い 水道事業をめざして

近年、台風等による災害規模が大きくなっており、今まで災害による影響がなかった施設にも被害が及ぶようになってきています。

昨年10月の台風第19号により、苦林^{にがはやし}浄水場が浸水し、一時的に施設が使用できなくなるという事態が発生しました。この浄水場では毛呂山町の水道水の約半分の水を作っており、災害等で浄水場が機能を停止してしまうと水の供給が大幅に滞^{とどま}ってしまいます。



令和元年10月に発生した台風第19号の影響により浸水した苦林浄水場

そこで、台風第19号による浸水被害を教訓として、7月に苦林浄水場浸水対策工事を行い、同規模以上の台風等の災害が発生した場合でも、苦林浄水場が稼働停止することなく運用できる対策を実施しました。

今回の工事では、電気設備等の運転に欠かせないポンプ室等の入口に新たに密閉性の高い止水^{しずい}パネルを設置し、浸水防止対策を実施しました。この止水パネルは、アルミの1枚板でできており、水かさが増してくると水圧で設置箇所と止水板が密着し、より高い止水性能を発揮することができます。

また、60センチ×60センチの雨水排水^{ます}樹を新たに設置し、雨水をより排水されやすくなる施設環境を整えました。さらに、対策を実施した上でも万が一浸水してしまった場合に備え、エンジンポンプや水中ポンプを整備し、速やかに排水を行うことで重要機器の水没による故障を防ぎます。

エンジンポンプは1分間に1.4トン、大型の水中ポン



アルミの止水パネル



排水用のポンプ

プは0.6トン、併せて1分間に2トン(お風呂10杯分程度)の水を排水することが可能です。

そのほかにも災害時に停電が発生した場合に備え、バルーン投光器を配備し、暗いなかでも作業が行えるよう対策を実施しました。

災害が起きた際にも、皆さんに安心安全な水^{しみず}を滞りなく供給できるよう、今後も対策を実施してまいりますので、ご理解ご協力をお願いします。

町の無料相談

相談種類		日にち	時間	相談場所	申込み・問合せ
法律相談	弁護士	9/8(火)、9/28(月) 10/13(火)、10/26(月)	13:30~16:00	役場会議室	役場総務課 ☎④313 (要予約)
	行政書士	9/16(水)、10/21(水)	10:00~15:00	役場会議室	役場総務課 ☎④313
人権・行政相談		9/10(木)、10/8(木)	13:30~16:00	役場会議室	役場総務課 ☎④313
成人健康相談		9/2(水)	9:00~12:00	保健センター	保健センター ☎294-5511
		10/2(金)	9:30~11:30	役場1階町民ホール	
電話健康相談		平日	9:00~17:00	保健センター ☎294-5511	
育児ほっと相談室		9/1(火)、10/1(木)	10:00~11:45	保健センター ☎294-5511	
もの忘れ相談会		毎月第3木曜日	10:00~12:00	中央公民館	地域包括支援センター ☎295-2112④126
子育て相談 なんでも話してみよう		9/11(金)、10/9(金)	10:00~11:00	役場相談室	子育て支援センター ☎294-4820 (役場相談要予約)
		9/25(金)、10/23(金)		子育て支援センター	
教育相談		平日	10:00~16:30	教育センター ☎295-2525 (電話相談可)	
心配ごと相談		毎月第2・4水曜日	10:00~12:00	社会福祉協議会(ウィズもろやま内) ☎295-3111	
消費生活相談		9/1(火)、9/8(火) 9/15(火)	10:00~15:00	役場相談室	役場産業振興課 ☎④214
生活困窮者自立相談 ※生活保護受給者以外		平日	8:30~17:00	アスポート相談支援センター埼玉西部毛呂山出張所 (ウィズもろやま内) ☎080-2274-1445	

歴史散歩

第315回

天然痘(疱瘡)にまつわる
願掛けや風習

新型コロナウイルスが広まる現在、歴史上
猛威を振るってきた病気に対して、人々はど
う向き合ってきたのかについて関心が集まっ
ています。日本の歴史において天然痘(疱瘡)
は、たびたび大流行を起こし、人々を恐れさ
せた感染症の一つです。その症状は、高熱の
後、顔や手足に豆状の発疹が発症します。死
亡率も高く、感染すると1~2週間で亡くな
ることが多かったようです。

多くの人々に感染する天然痘は、古来から
疫病を広める悪神、疱瘡神によって広まると
信じられていました。そのため、病魔を祓う
色とされる赤で塗られた張子の玩具や赤一色
で刷られた錦絵(赤絵)を飾ったり、かかっ
た人に赤い服を着せて天然痘を追い出そうと
したりする風習が各地に残っています。

毛呂山にも岩井地区の金刀比羅宮に、赤い
着物を着た男性がお宮を拝む姿を描いた慶応
元年(1865)奉納の小絵馬が残されてお
り、天然痘に関連した資料とみられます。絵
馬からは、天然痘の広まりを防ごうという人
々の願いが垣間見えます。

日本における天然痘の予防接種(種痘)は、
阿諏訪出身の蘭方医安藤文澤をはじめとした
幕末・明治期の医師たちの活躍により日本に
普及し、日本では昭和30年(1955)に天
然痘は根絶されています。しかし、種痘が義
務化された後も、「疱瘡の湯送り」と呼ばれ
る疱瘡神を送り出す行事が明治期から終戦直
後まで葛貫地区で行われていました。

この行事は、種痘を終えた後、神社でスイ
カズラの煎じ汁を種痘の痕にかける真似を
し、神社で赤い色紙と御幣をいたたくとい
うものです。いただいた御幣をカツノキで作
った棚に立てて竹の柄杓と供物を供え、翌日に
桑の木に株に祀り、疫病神を送り出します。
種痘が普及してもなお、疫病に対する不安と、
なんとしても疫病は退けるといふ人々の気持
ちが感じられます。

現在では、医
学の進歩により
多くの病気を克
服することがで
きるようになり
ましたが、疫病
に対し最大限に
警戒する気持ち
は、現在を生き
る私たちにも必
要なものといえ
るのではないで
しょうか。



金刀比羅宮(岩井地区)の拝み絵馬